

キャラクター名  
伊織 誠二

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ブラックドッグ		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	中学生
	オプション		年齢	14	性別	男
覚醒	生誕	衝動	嫌悪	初期侵食率	52	%
出自	親の理解	経験	秘密	邂逅	慕情	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	3	0	0	1		4	行動値	25
感覚	2	1	0	1		4	(非装備時)	27
精神	2	0	0	2		4	戦闘移動	32
社会	1	0	0	2		3	全力移動	64

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃	3		RC	2		交渉		
回避	6		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	3
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
小型浮遊砲	射撃	6r+1		5		ハードワイヤード3つ 装甲値無視
アームブレード	白兵	6r+2	3	9		ガード値-5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
ブーストアーマー		15		-2	肉体・感覚・精神のダイスを+2 メインプロセス後侵食率+2

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 父親	
エンブレム	

合計装甲: 15    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイプ	消費
秘密兵器: ブーストアーマー	P 好奇心	N 憎悪		
神無月朔	P 友情	N 不安		
レン	P 尊敬	N 執着		
ノキア	P 信頼	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
先手必勝	5		オート	至近	自身	自動		
効果: 行動値+Lv*3 侵食率基本値+4								
コンセントレイト	3	2	メジャー			シンドローム		
効果: C値を-Lv(下限値7)								
アクロバット	5	1	リアクション	至近	自身	対決		
効果: 技能:回避 ドッジのダイスを+Lv								
バリアクラッカー	3	4	メジャー	武器		対決	80↑	
効果: シナリオLv回数分、ガード、装甲値無視								
リフレックス	3	2	リアクション	至近	自身	シンドローム		
効果: リアクションのC値を-Lv(下限値7)								
ハードワイヤード	4		常時	至近	自身	自動		
効果: 専用アイテムをLv個装備 基本侵食値+4								
一迅の風	5		常時	至近	自身	自動		
効果: 戦闘移動、全力移動、離脱後の攻撃力を+Lv*2 基本侵食率+4								
軽功	★		常時	至近	自身	自動		
効果: 水面も壁も走り抜けられる								
セキュリティカット	★	1	メジャー	至近	効果	自動		
効果: セキュリティーロックを解除。GMの指示で知覚orRCで判定								
アンテナモジュール	★		常時	至近	自身	自動		
効果: 通信機器がどこでも使える								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

ガンブラ好きの中学生…の振りをしたかったUGNチルドレン。  
父親の趣味に飲み込まれ、ガンダムをこよなく愛するプラモデラーとして立派に成長した。  
コードネームは本人の意思に反して決められた。

小さい頃に姫宮由香里に世話になったような記憶があるが、本人の記憶は定かではない。

《レンとの出会い》  
樂島商店街にある実家のプラモデル屋に893が入ってきたときの事。  
お供で付いてきている部下二人が店員と間違えたクラスメートを脅すために少し店内を荒らした時に売り物のRG・Zガンダムを踏みつけた際に激怒。  
ぐろの音も出ないほどの正論を叩き込んで謝罪させ、弁償させた。  
その時どさくさに紛れてHG・RX78-2 ガンダムをおまけで付けたので、それを楽しんでくれればと思っている。

《神無月朔との出会い》  
入学した中学校で知り合った友人。  
下校時に実家の模型店でガンブラを組むところを覗きに來るくらいの友人関係であり、店の仕事の手伝いを買って出してくれるくらいの信頼関係はある。  
しかし自分の正体を隠して友人として付き合う事に壁を感じている。親友は一人ぐらい欲しいものだ。